

平成 26 年度 第 2 回「三条市勤労青少年ホーム運営審議会」会議録

平成 27 年 4 月 23 日調製

1 日 時	平成 27 年 3 月 26 日 (木) 午後 2 時開会
2 場 所	三条市勤労青少年ホーム 音楽室兼集会室
3 出席委員	小林会長、藤田副会長、田部、吉澤、中川、渋谷、佐藤の各委員
4 欠席委員	柄澤、山田、皆川、関崎、久保田の各委員
5 説明のための出席者	佐藤館長、佐藤事務長、諸橋主任 三条地域若者サポートステーション佐藤統括コーディネーター
6 所管課	金子商工課長補佐、五十嵐商工課主任
7 傍聴者	なし
8 報道機関	三条新聞社
9 議事内容	(1) 平成 26 年度の実施状況報告について (2) 平成 26 年度三条地域若者サポートステーション事業の実施状況について (3) 平成 27 年度活動方針案及び事業計画案について (4) 勤労青少年ホームの利活用について (5) その他
10 会議の経過及びその結果	
小林会長	これより第 2 回の運営審議会を始めます。2 回目の調整を経てようやく開会に至りました。では、最初に佐藤館長よりあいさつをお願いします。
佐藤館長	ちょうど 1 年前に新潟県労働者福祉協議会で三条市から任せていただき、この間、佐藤事務長以下運営にあたってまいりました。また、運営審議委員の皆様からは忌憚のない貴重なご意見の中で進めてさせていただき、改めてお礼申し上げます。本日は年度末のお忙しい中をご都合付けていただき会議が成立することができました。 この 1 年間の活動について、ご説明とご意見を伺いながら改めて次年度の計画についてご審議くださいますようお願い申し上げます。
小林会長	それでは議事の 1 番、平成 26 年度の活動状況報告について事務局説明願います。
佐藤事務長	(資料について説明) その他、前回会議の中で提案いただいた件について、これまでの間で実現に漕ぎつけた項目について説明します。まず、ホームページ上に施設の予約システムを表示できないかという点ですが、三条市の公共施設予約システムは全体でプログラムしている関係でソレイユ分だけ切り取ってということができないものですからそのまま 1 ページに貼り付けております。それからホームページトップの写真が面白くないということですが、講座やサークルの写真をギャラリーとして追加しております。LINE の公式アカウントですが、なんとか 3 月中に間に合いました。現在若者はスマホの利用が大半のことからメルマガなどと

	<p>は違い、LINE は直接的に見ることができるので利点はあると思います。成人式での景品付きアンケートを新成人に配布しましたが、WEB上でソレイユのことについて聞いております。今のところ反応は鈍いですが、締め切りまでにもう少しあるので推移を見たいと思います。</p> <p>昨年末に実施したアンケートですが、グラフになっているので一目瞭然ですが、現在の講座で人気はピラティスや料理、筆ペンとなっております。また、新規講座として人気はヨガ、お菓子づくり、書道が上位を占めています。</p>
小林会長	<p>ただいまの件について、質問、意見はございますでしょうか。(挙手なし)では、ひととおり報告を受けてから、あとでまた意見があれば発言してもらうことにします。</p> <p>次に議題2の平成26年度三条地域若者サポートステーション事業の実施状況報告について説明願います。</p>
佐藤統括コーディネーター	<p>若者サポートステーションは、平成18年から15歳から39歳までの若者たちの職業支援ということで活動をしてきました。この4月1日からものづくり学校へ移転するというので、ソレイユで9年間活動させていただいて、ようやく成果が出たのかなと感じております。</p> <p>(以降、資料により説明…中略)</p> <p>平成27年度事業ですが、国は3年前からS等級からE等級までのランク付けをしていますが、これまでの実績が実を結びA等級にランクアップをして、もう少し事業展開が楽になるのではないかとということで報告いたします。</p>
小林会長	<p>サポステ、ソレイユと報告がありましたが、それぞれに質問ないしは意見をお願いします。順次質問などをいただきたいところですが、考えるまでの時間、私から先に質問します。</p> <p>公共施設予約システムを貼り付けたのはいつ頃になりますか。</p>
佐藤事務局長	<p>前回の会議が終わって一か月以内くらいです。</p>
小林会長	<p>貼りつけた前後でアクセス数が変わりましたか。データがなければいいのですが、多少なりとも上がったらいいなと思ったので。</p> <p>それから、今公共施設予約システムを見ようと思ったら見られないですね。I-phone や i pad に対応してないですね。これはソレイユの問題ではなくて三条市の問題なので市に言わなきゃいけないですね。</p>
佐藤事務局長	<p>関係課に問い合わせてみます。</p>
小林会長	<p>それから、9ページでサポステさんのセミナープログラムってどんなことをやっているのですか。</p>
佐藤統括コーディネーター	<p>就活セミナーとしてコミュニケーションセミナー、普段なかなか外に出られない子も体育館を使ってのスポーツですとか男性が苦手の方の女子カフェ、水・金にソレイユの喫茶コーナーを使って2、3人ですがランチや喫茶のジョ</p>

	<p>ブトレーニングも行っていきます。喫茶などは3か月ごとに入れ替わり、対人関係のトレーニングにはとても有効です。他に企業見学や企業の方から来ていただいて、話を聴いたりします。あとは声がかかればお茶出しなどのボランティアも引き受けます。今週も嵐南小学校で熟年いこいの会の皆さんと歌う会で先導役もいたします。ここに来る青年たちは職業などの経験がほとんどない人たちばかりですから、頭では対人関係など苦手意識がありますが、いろんな体験をする中で苦手意識が薄れていくことが自信につながりますので、ほんとに体験重視になっております。</p>
渋谷委員	<p>Facebook やLINE の件で若者をターゲットに戦略的に「攻めてるなあ」という感じはありますが、実際アンケートを見るとWEBでの回収がないとか福祉推進者の企業からの回答が多いというのは関係者が多かったのかお聞きしたい。</p>
佐藤事務長	<p>アンケートのソレイユというのが実際ここを使っている関係者と言えば関係者になりますが、福祉推進者というのは加盟している事業所にアンケート用紙を配り、そちらの従業員の方に提出してもらっていますので、必ずしもソレイユを利用している方とは限りません。確かにWEBでの回収件数が16件で少ないですが、皆さん意外と紙ベースで回答してもらっています。</p>
渋谷委員	<p>勤労青少年ホームという位置づけとしてはまだまだそういう部分で若者に対して弱いという感じがしておりますので、これからLINEなどもやっていくと思いますが、その辺から27年度もやっていただきたいと思います。</p>
小林会長	<p>難しいですね、知ってもらうというのは。</p>
佐藤事務長	<p>あらゆる機会を通してやっていきたいと思います。</p>
佐藤委員	<p>説明をお聴きしまして感想になってしまっていますが、指定管理になってイメージがいい方向に変わりつつあるのかなあと感じています。自分自身も他の指定管理のお手伝いをしていますが、なかなか指定管理になったからといって全部がうまくいっているとは限りませんが、こと勤労青少年ホームに関しては大変うまくいっているのではないかなあと感じております。</p>
中川委員	<p>4ページ目のお楽しみサロンの中に「折り紙」の実施回数が8回で延べ人数が8人ということは毎回参加者が1人ということになりますが、これから議題にもなってくると思いますが、1人でもサロンは継続するのでしょうか。もし止めるのであれば代替案などがあるのかなという点と、もう一つ議題の本質から外れてしまっていますが、なんだろうと気になったことは、9ページ目の進路決定者内訳の備考欄に「八幡寛（やはたひろし）」と個人名がありますが…</p>
佐藤統括コーディネーター	<p>すみません、個人名ではなく「八幡館（やはたかん）」の変換ミスです。</p>
小林会長	<p>それにしても、(進路決定者が)139人のうち111人が非正規社員ですか。少し残念ですね。</p>

佐藤統括コーディネーター	それでも例えば10年お家にこもっていた方が仕事に出るって相当です。そういう方ばかりではないので当然ですが、中にはリファーされる方が多いのが現実ですので、まだ世の中そんな方たちはたくさんいらっしゃいます。
田部委員	ご案内のとおり勤少ホームのあり方ということがずっと言われていまして、今回配られた年代別の数字を見ますと35歳未満の方が一定数来ていただいているということで、他地域では老人会などの利用が多く、目的が変わってもろに公民館化していることを良しとしている考え方がある中で、今現在こういう数字を残して運営されている。併せて本来のあり方を維持して、また、LINE等の活用でさらに（若者獲得を）目指していることについては非常に期待をしているところです。あり方の流れの中で余暇の活用や交流だとかキャリアアップの方法だとか国のほうではいろいろな生き残り策をやっていると思いますが、前回交流活動について質問したと思いますが、折り紙で交流をするというのは、お年寄りが子どもたちに教えるというイメージなのか、折り紙で青少年との交流は33人とあるが小中学生の人数はどれくらいかわかるものなのか。
佐藤事務長	折り紙教室の33人の内訳ですが、一人だけ折り紙サロンのアドバイザーですので、全体から8を引いた数字が小中学生の人数になります。
田部委員	世代間の交流というイメージの中で、小中学生と青少年、それから私は早く着いてロビーで時間をつぶしていましたが、喫茶コーナーにお年寄りの方がたくさんいて、また、体育館では子どもたちが縄跳びをして大分にぎやかでした。そういった世代間の交流や併せてサポステが入っていた時も相談者とお年寄りとの交流が行われていたのかなということを感じていたわけです。
佐藤事務長	先ほどの中川委員の質問に答えていなかったので、4ページの折り紙サロンが毎回1人だということでしたが、これについては講座ではないので、少ないからこちらからやめてくれということにはならないです。この方は30代の青年アドバイザーですので、やると言われる限りは続けたいと思っております。ただ、集まってくれるような仕掛けは検討の余地があります。
小林会長	やる人がいて誰も来ていないという状況ですか。
佐藤事務長	サロンは事前に登録するしないに関わらずふらっと来てもらっていいものですから、気軽な場所になります。
藤田副会長	自分は青少年福祉推進者連絡協議会の事業に関して感じたことですが、佐藤事務長からいろいろ案を出してもらって、事業そのものは毎年同じことをやっていますが、中身を発想の転換で変えたことによって非常に参加が増えた実例がここに出ています。バレーボールに関してもサポステさんから毎年出てもらっていますし、ボウリングに関しても大会の運営内容を変えたことによって参加人数が倍増したことで、着実にその目的を達成していますので、来年も引き続き継続していただきたい。ありがとうございました。

小林会長	では、次の議題に進みます。議題3の活動方針案と事業計画案の説明をお願いします。
佐藤事務長	議題（3）平成27年度活動方針案及び事業計画案を資料により説明
小林会長	先に4番の説明をいただいてから質疑に入りたいと思いますので、説明をお願いします。
佐藤事務長	議題（4）勤労青少年ホームの利活用について資料により説明
田部委員	また感想で申し訳ないのですが、先ほど来から交流ということが言われていますが、三条市の施策として子ども若者総合サポートシステムの中に勤少ホームが有機的に組み込まれているということと合わせて行政側が協働するような場面がないと思われるライフサポートセンター、いわゆる働いている方が困って相談ができるような他団体も含めた施設を活用して、全体のシステムの中でいろんなことができる。そういう意味では勤少ホーム単独で考えるよりもやりようというのが開けるのかなと施設利用全体の構成の中で感想として持っています。併せて例の「20歳の前日祭」でお酒が飲める、さすがに指定管理者制度の中で考え付くことで行政は普通端から考えないようなこともできるかどうかという形で進んでいくことが、講座はどうだとか方針の枠組みから施設の利活用までひとつお聞きかせていただいて、もう一回同じ言葉を使いますが、期待しているところです。
中川委員	平成27年度の講座の関係で、広報する際に定員まで余裕のある場合は35歳以上も受講できるということが書いてありますが、青少年の定義というのは35歳未満のことを青少年というのか。仮にそれをオーバーしてもいいよということで案内されたということは全体に講座の稼働率が低いからで（受講率を）上げていこうということからで、そもそも勤労青少年ホームとしての意味がだんだん薄れてくるのではないかということを感じました。先ほどヨガの講座が定員に達したということですが、35歳以上の申込が現在どれくらいの割合になっているのでしょうか。
佐藤事務長	まず、35歳未満と35歳以上なんですけど、講座によってばらつきがありまして太極拳や茶道など長く続いている講座については、以前からの受講生の年齢がだんだん上がってきてそのまま講座を継続している関係で、年齢は35歳以上のほうが多くなっています。割的には登録者数をご覧いただくとわかりますが、35歳以上のほうが多いです。そこで今年の目標は35歳未満を増やして半々くらいになるように目標を持っています。そのためにはいろんな広報媒体を使いながらももっともっと青少年にアプローチしていきたいと思っています。 35歳未満が青少年の枠組みということについては、厚生労働省ではまだ35歳未満ということで定義づけています。サポステや子ども若者総合サポートシステムは内閣府のほうで30代、39歳までという位置づけになっていますが、厚労

	省の今のところの基本方針は35歳未満という位置づけになっております。
佐藤委員	私も感想ということで話をさせていただきますが、今後どのように変わっていくか非常に楽しみにしていますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。
渋谷委員	平成27年度も指定管理に変わって新しいことに挑戦しているなあということを感じています。4月からサポステさんが移転することで、喫茶の利用数が減る見込みになるでしょうか。
佐藤事務長	サポステが移転することによって、利用という形では、確かに今まではセミナーやトレーニングに来て終わったあと、喫茶でお茶を飲んだり話をしたりというケースが多くありましたが、その部分がなくなるかもしれませんが、サポステさんの事業の中で今後この施設をどのように使っていただくかということにも関わってきますけれども、そういう点では少し遠のくのかなという気がしています。
渋谷委員	<p>喫茶の目的がボランティアですけども、職業体験とかそういうものも兼ねていると思うので、来てくれる人が少なくなるとどうしてもそういう懸念もされますけど、ちょっと離れるけど喫茶もあるよという風に周知していただければと思います。</p> <p>あと、地域のことをもっと若者に知ってもらおうという観点で、意外と地域の魅力というものがわからないこともあるので、納涼祭も企画としてありますが、例えば三条祭りの行列に参加してみるとか、地域の魅力を発見することなども検討していただければと思います。</p>
小林会長	そういうことってありましたか。
佐藤事務長	以前ですが夏祭りに参加したこともあるようですが、ずっと下火になって出てなかったです。今後、いろんな青年たちと相談しながら、できれば出たいと思っています。
小林会長	三条祭りなんかは出やすいような気はしますけどね。
佐藤館長	<p>三条祭りは平日開催なので、勤労青少年はきついと思います。</p> <p>夏祭りであれば夜なので、どちらかという出やすいと思います。</p> <p>いま渋谷委員からいただいたご意見はもつとも、三条は特異な所でいろんな方が地場産業で活躍されています。若い青年層の皆さんが会社では中枢を担われている点では他の地域ではなかなか見られないところですし、勤労青少年ホームの位置づけとしてもサポステさんを含め、体験だとか企画としていろんな行事や特殊なイベントにソレイユとして工夫をしながら関わっていくということも企画を始めていますので、その段階でお披露目したいと思っています。</p>
吉澤委員	ハローワークですと若者というと39歳以下に変わってきている。世の中の流れが30代は若者という捉え方の中で、自分の職場でも35歳未満の方はほんとは少なくなって利用できない年齢層ばかりなので、こちらも年齢層のアップと

	<p>かあり方を考えていただけたらと思います。</p> <p>余談ですが、今回新たに講座としてスタートするZUMBAは講師が知り合いなので動きが激しいが、いい企画だと思っています。</p>
藤田副会長	<p>体育館の利用を考えていますが、金額はどのように決めていますか。</p>
佐藤事務長	<p>市の条例に基づいてそれを引用していて、広さによって金額が変わります。</p>
藤田副会長	<p>1時間1,700円で5時間使うとかなりの金額になります。</p>
佐藤館長	<p>体育館ですので、一人・二人の使用ではなくて、ある程度のグループや団体で使用することが想定されているのでしょうか。ですから事務長が説明したように広さによって金額が決められているのではないのでしょうか。</p>
小林会長	<p>逆に講習室なんかは300円ですが、それも条例で決められているんですか。</p>
佐藤事務長	<p>そうです。</p>
小林会長	<p>300円とか600円とか手間のほうがかかるんじゃないの。</p> <p>今年度、20歳の前日祭とか一日講座体験イベントなど新しい着想で取り込まれていると思いますが、でも結局、チラシの配布だとか何にしても人集めをする中で僕らも仲間内でよく議論するんですが、Ipad3台くらい用意して、参加すればIpadが当たるよと言えば何百人か集まるということ聞いたことがあって、それもアリだよなという思いがしたんですが、とにかく来てもらって各部屋をぐるっと回ってスタンプを押して、それなりに意味はあるのかなど。広報や三条新聞なんか読んでなくて、WEBの中でそういったことも周知するのでもアリだよと思っています。実現可能かどうか別として。</p> <p>アルコールを出すというのは有料でやるのですか。</p>
佐藤事務長	<p>ジャズを聴いてワンドリンク、ツードリンクで1,000円ほど考えていますが、どんなでしょうか。</p> <p>飲み放題という意見もありますが、時間を決めて楽しんでもらうことを考えています。それに翌日がソレイユ祭ですのであまり飲み過ぎるのは避けたいと思います。</p>
小林会長	<p>いい企画だと思いますが、このことの認知が課題となってきます。打ち上げ花火じゃないですが、にんじんをぶら下げる的な方法も三条市ならできないかもしれないが、ここならできるかもしれないので考えてみてはどうか。</p>
佐藤館長	<p>会長がおっしゃるように来てもらわないと意味がないので、認知だとか周知だとか方法をこれから検討させていただきたいと思います。</p>
小林会長	<p>その他事務局のほうで何かありますか。</p>
佐藤事務長	<p>事務連絡になってしまいますが、規則では運営審議会の会議録を作成することになっていますので、今回の議事録は会長と事務局で調製しまして情報公開コーナーとホームページに掲載予定です。</p>

小林会長	その他、皆さん方から何か連絡事項でもなんでもよろしいですが、ありませんでしょうか。
金子課長補佐	本来議題の中でお話すればよかったんですが、委員の皆様からいろいろなご意見いただきありがとうございました。行政としまして指定管理者に移行した中で、いろんな新しい取組の中で、講座や行事等で会員の方も増えましたし、参加人数も増えております。ましてや26年度は6月から8月まで空調機器の改修や体育館の工事などで2か月近く利用できない期間がありましたので、その中で数値的に増になったことはほんとに指定管理者の努力の賜物だと思っていますので、ただ今後の課題として、まだまだ口コミで人を集めている部分があるのかなと気がしますので、今ほど委員の皆様からお話がありましたあらゆる方法を使って、この施設を認知していただいて今後今まで以上の活動が行っていければありがたいと思っていますので、そのためにも委員の皆様のご意見をいただければありがたいと思っています。ありがとうございました。
小林会長	ほかに特になければ、これで閉会とさせていただきます。 お疲れさまでした。
	閉会 午後3時20分